

世界の森林と、 問題解決へ向けての さまざまな視点

三次 啓都
FAO事務局長補



浅野(中静) 透

国立研究開発法人
森林研究・整備機構 理事長

Studio 5thにて（7月に対談）
Photo by Godo Keiko



FAO(国際連合食糧農業機関)の事務局長補として、
世界の農林水産業や人びとの暮らしの向上への政策提言、
森林の保続と利用の調整などに奔走されている^{みつひろと}三次啓都さんと、
この4月に当機構理事長に就任した、^{あさの なかしかと おる}浅野(中静)透 新理事長に
世界の森林とアフターコロナについて、
多角的な視点からお話し頂きました。

浅野 ●FAOから、最新のレポート「世界森林資源評価」*ができましたね。

三次 ●ええ、ちょうど先週です。

浅野 ●世界の森林の傾向はいかがでしょうか？
三次 ●森林減少の速度は鈍ってきてはいま
ね。好ましい傾向ですが、同時に森林の拡大
も微妙に減っているんです。この要因がどこ
にあるかは明確ではありませんが、ひとつ言
えるのは、REDD^{レッド}プラス*が始まってから
森林減少のスピードが落ち始めているん
です。おそらく保全をすることが利益になる
という、そうした認識が浸透しはじめてきた
のだろーと思います。

浅野 ●世界で森林保続への取り組みに濃淡が
でてきた感じでしょうか。

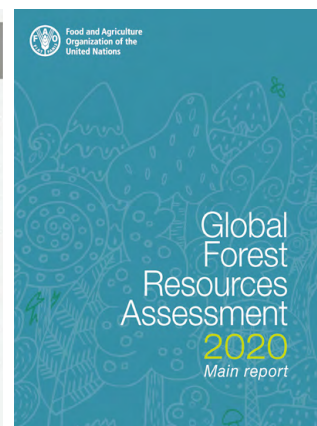
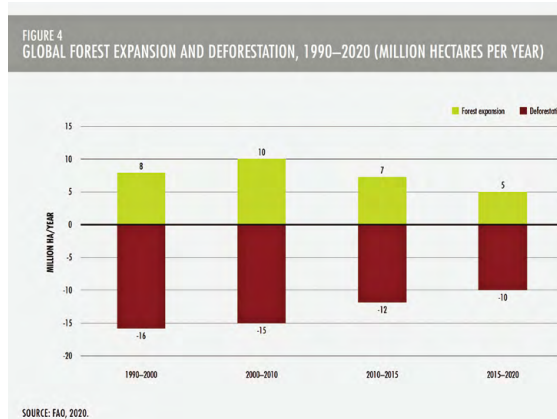
三次 ●そうですね。2015年のレポートで
も言及されていたことですが、土地利用の変
化、すなわち森林の農地への土地転換が森林
減少・劣化の要因との指摘があつて、森林部
門だけでは森林の減少を止められない。で
は、どのように農業部門と連携をとってい
くのか、そこが問われていると思います。

SDGsの視点でいうと、科学的な実証に
基づく、政策判断がいかに重要かということ
です。

浅野 ●以前、地球研*が、国内の研究者に集
まってもらつてSDGsに関してどういった
研究テーマがあるかまとめたことがありま
す。「森林」は当然、15番目の目標「陸上生
態系の保全」にもっともストレートに貢献で
きるわけですが、じつは、そこだけでなく、
広くいろいろなことと関わってくる。

*Key Words 世界森林資源評価

FAOが、1948年から行っている世界の森林の現状をまとめたメインレポート(右)。持続可能な森林管理のさまざまなテーマを網羅し、森林資源とその状態、管理、利用に関する包括的な評価を行っている。グラフは、「state of the world's forests 2020」より、世界の森林の拡大率(緑)と減少率(濃赤)。
<http://www.fao.org/documents/card/en/c/ca9825en>



三次 ● そう、SDGsの1番「貧困の克服」や、2番「持続可能な農業」、それから5番の「ジェンダー平等」もけして無関係ではない。13番「気候変動への対策」、14番「海洋資源の保全」にも、もちろん大きく関わりますね。

浅野 ● そうした広い分野と関わる森林の役割や価値というものをとくろズアップして伝えることができないかと考えています。

三次 ● たとえば、世界の研究機関が共通メッセージを出してはどうでしょうか。外に向かつて「わかりやすいメッセージを出す」とことはとても大事です。これはもちろん、FAOの課題でもあります。新型コロナウイルス(以下、コロナ)でも、森林破壊が原因で新たな感染症が出現する可能性があることは、説明すれば理屈ではわかってもらえますが、メッセージとしてストレートには響かない。

浅野 ● コロナといえば、海外では森林関係への影響はみられますか？

三次 ● アメリカやカナダの森林局では、コロナの影響で森林官がパトロールに出られないということがあったようです。そのため、森林の監視活動ができず、また森林火災が勃発しても消火ができなかったとか。

浅野 ● 防火衣を着て森林に出かけるのなら、問題なさそうなのですが……。

三次 ● やはり、チームとして動くからでしょう。消防部隊などは密にならざるを得ないので厳しいかもしれませんね。

プラスの影響では、北米で住宅建設が好調だそうです。ようするに、テレワークが進み、都市を離れて地方で仕事をするために住宅市

場がけっこう盛況だそうです。

浅野 ● 日本でもテレワークへの動きはありますが、仕事によつては自宅のパソコンで、というわけにいかないのが、意識の変革と根本的なシステム変更が必要ですね。

三次 ● 社会のシステムを変えることは、ある意味必然といえますか。たとえば気候変動にしても、省エネだけでは温暖化をストップできないことは目にみえています。いつかは変わらなくてはならない。EUは、「グリーンリカバリー*」という提案をしていて、もともと環境に対して努力を重ねてきた地域なので、コロナ禍からの経済復興を機会に温暖化対策をより一層加速させようとしています。

浅野 ● 根本的なところで「トランスフォーメーション(変革)」を起こさないと、地球環境問題や資源問題は解決しないし、貧困などの社会問題も解決しない、というのがSDGsのいちばんの肝ですね。たとえば東京などの一極集中でいいのか、地方を重視した分散自立型の社会を構築したほうがいいのか、そうした政策的なシミュレーションを分析・研究している大学の研究者もいますが、一極集中型か自立分散型か、明確なヴィジョンをしつかり示さないと、いまのままでは必ずダメージを受ける。いままさにその分岐点にある。ここ10年20年ぐらいの間にその決断を迫られるのだろうと思います。

三次 ● 日本は少子高齢化、労働力不足、移民の受け入れなど、さまざまな面で政策的な難題を抱えていますね。

浅野 ● そうした中、どこまで本気で分散型の

*Key Words グリーンリカバリー

COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の流行によって落ち込んだ経済を立て直す際に、環境への配慮や持続可能性のある社会への移行をより強くめざす政策。感染症に伴うロックダウン(都市封鎖)は経済を停滞させたが、同時に大気汚染などの改善も顕著にみられたため、環境意識の高いEUにおいて提唱されている。

*Key Words 地球研

総合地球環境学研究所の略称。2001年に大学共同利用機関の研究機関として創設された。おもに地球環境問題を総合的に研究している。

*Key Words レッドプラス

開発途上国で森林減少・劣化の抑制や森林蓄積の増加などによって温室効果ガス排出量を削減する努力を行った場合、それを評価しインセンティブ(資金提供など)を与える気候変動対策。2005年にパプアニューギニアなど途上国が提案し、2013年の国連気候変動枠組条約(COP19)で採択された。▶P.14 研究の森からを参照。



三次 啓都 (みつぎ ひろと)

1962年愛媛県今治市生まれ。国連食糧農業機関(FAO)事務局長補。1987年北海道大学農学部林産学科卒業。1996年英国レディング大学林業普及修士課程修了。国際協力機構(JICA)で森林・自然環境保全グループ長、農村開発部長を歴任し、森林、農村開発領域での開発援助に従事。マラウイ、カンボジア、フィリピンに駐在。2017年より現職。FAOの森林統括部門で森林分野における総合調整、各種国際会合での森林に関する政策対話に従事。



「COVID-19(新型コロナウイルス感染症)は社会システムの変革を促しています。変革(Transformation)は、SDGs、そして気候変動にも共通するキーワードです。より良い社会、Build Back Better with Forestを実現していきましょう。」

巻頭●対談

世界の研究機関が共通メッセージを出してはどうでしょうか？ 「わかりやすいメッセージを出す」ことはとても大事です。

社会をつくることができるか、でしょうか。個人的には、一極集中の都会生活はやはり住民に相当な無理を強いている面があるように思っています。コロナ禍で、それがかなり顕在化しています。毎日、通勤地獄で都心まで通う必要があるのか。その往復の時間を森で過ごすなど、もっと有意義な時間として使えないのか。森林が身体的にも精神的にも、人間の健康に資することを示すデータもたくさん出てきています。自分や家族の生活、そして幸せをどう考えるか、そうした人生の質を重視する考え方に転換していくことが求められています。

三次 ●話は変わりますが、森林総研では人畜共通感染症の研究はされていますか？

浅野 ●たとえば、鹿がダニを運ぶので、鹿が増えるとダニが増え、そのダニが人に病気を広げるといふ、そうした感染症の研究はしています。森林を奥山まで開発することで、本来なら人間が出会うはずのない生態系の中の病原体と接してしまうとか……。

あと、単一品種の密集も問題ですね。家畜は、遺伝的に多様性の低い集団を1カ所に集めて効率的に飼育する。菌やウイルスを完全に排除できれば問題ありませんが、そこに病原体が入ると急速に蔓延して手のつけようがなくなる。家畜だけでなく、集約的な大量生産方式は、否応なくこうしたリスクを負っています。森林を含めて土地利用をどうするかということとは、根本的な問題だと思います。

三次 ●食糧生産と森林のコンフリクト(利益相反、対立)は大きいですね。オイルパーム(アブラヤシ)や大豆、牛肉生産もそうです。そ

うした土地利用の問題や、生活の質の問題、なかなか一筋縄ではいきません。

たとえばカンボジアでは、さすがに今は規制が厳しくなっていますが、2004〜5年頃までは、土地を新たに伐り拓いてそこに3年住めば自分の土地になるという慣習があったんです。そこで、「3年間住んだらお金をあげる」と言つて有力者が貧困層の人を連れてきて住まわせ、その土地を自分のものにする。そうやって森林が気づきずに伐り拓かれるということがありました。あとは火入れです。伝統的な焼畑ではなく、森を拓いて、土地を転換するための火入れです。

浅野 ●マレーシア辺りでは、若い人たちが伝統的な焼畑を嫌がってやらなくなったことで、村で持続的に行われてきた焼畑の土地を企業がそっくり買い取り、オイルパームのプランテーションにしてしまうというようなことも起きていますね。

三次 ●焼畑のローテーションがゆっくりであれば、十分に地方が回復するので、昔の焼畑には合理性があったと思います。そうした焼畑をいまでも続けているのは、ラオスぐらいでしょうか。

以前、学生を連れてネパールに行った時に、農村部の若者がみんな出稼ぎでいなくなり、日本という3ちゃん農業*みたいなになって、人口も減って年寄りが多くなつてしまった。すると何が起るかという、薪をたくさん採つてこなくなる。森林は回復しますが、手入れができてないので、そのままだとあまり質のいい森にはならない。

* Key Words 3ちゃん農業

1960年代の日本で、農家の働き手である父ちゃんが都会に出稼ぎに行き、残されたじいちゃん、ばあちゃん、かあちゃん(の「3ちゃん」)が主体となって農業に取り組むことが多くなったことから、そうした農業形態を「3ちゃん農業」と呼ぶようになった。

イタリア、ローマのFAO本部で開催された第24回森林委員会および第6回世界森林週間で、国連森林戦略計画実施の支援を表明する三次さん(2018年7月)。

©FAO/Pilar Valbuena



浅野(中静) 透 (あさの なかしずか とおる)

1956年新潟県生まれ。(国研)森林研究・整備機構理事長。中静透は、旧姓で筆名。千葉大学理学部生物学科卒業。同大学院理学系研究科生物学専攻修士課程修了。大阪市立大学大学院理学系研究科後期博士課程生物学専攻単位修得退学。東北大学大学院生命科学系研究科教授。専門は植物生態学。熱帯林や温帯林における森林の動き、樹木の生活史、生物多様性が維持されるしくみなどを研究している。第1回「みどりの学術賞」受賞。



「SDGsは単独のゴール達成ではなく、複数のゴールをまとめて達成するという点が重要だと思います。COVID-19をきっかけに、森林を中心としてそれができるのではないかと考えています。」



巻頭●対談

「変革」が必要という点では、 考え方は一致してきているのかなと思います。

浅野 ●日本の里山とおなじ問題ですね。

三次 ●ただ今回の感染症の件で、また農村に人が戻る動きが出始めているので、そうなったときにきちんとした意識をもって森林の利用を考えないと、また農地開墾で森林を伐り拓いてしまうことになりかねない。

浅野 ●里の森林は、使い続けているからこそ、あれだけのポテンシャルを保っているということですね。現地の人たちの生活を考えると、たやすくは言えませんが、これからの時代どういう生活を望むのかということにかかってくる。都会の生活は経済的には有利ですが、その都会の生活に何を求め、そこで何を失っているのか、そうしたことを改めて客観的に評価しないといけないと思います。

ところで、今年は森林火災が多発しました。去年あたりからすごいですね。

三次 ●ブラジルは、政策の問題とやはりコロナで森林の管理が手薄になったことがありますが、ブラジルは人為的要因が大きいのですが、オーストラリアは雷が原因と聞いています。もちろん、例年以上の乾燥が火の広がり一拍をかけています。

浅野 ●オーストラリアは昔から山火事から守るために大変な努力をしてきている国ですが、今回の山火事の面積は想像を絶するもので、野生生物への影響も大きいと聞きます。シベリアの森林火災にも驚かされました。本来寒冷で凍土におおわれたツンドラ地帯での気温上昇と火事です。

こうした森林火災の多発は、気候変動の影響も大きいと思いますが、森林の焼失は生物

多様性の喪失への影響も甚大です。

三次 ●今年予定されていた生物多様性条約締約国会議(COP15) *は、コロナの影響で来年に延期されましたが、この10年と次の10年で歩みはどうでしょう。

浅野 ●進んだところはあると思います。生物多様性の2020年目標を評価して、新しい目標を2030年までに作ることがCOP15の大事な案件です。

SDGsで指摘されていること、それこそ「変革」が必要という点では、考え方は一致してきているのかなと思います。問題は、いかにそれを起こせるかどうかでしょう。

三次 ●現実的な話をすると、生物多様性も、気候変動も、途上国からは、それぞれの目標達成に必要な指標をできるだけ統一して欲しいという声があります。森林の指標ではできるだけ統合させようとしているのですが……。

浅野 ●途上国と先進国では動きがちがうので、そこへ中国やベトナムが入ってくると、さらにそれぞれの思惑と方向性がちがってくる。そこで統一目標をとというのは、道のりは険しくきびしいですね。

今回のコロナの影響も、たとえば気候変動に関してみると、各国の排出量は一時的にある程度減りました。リカバリーの過程で、われわれは、どう対処できるのか。たとえば個々の取り組みとしては、地方に木材で家を建てるということもあるでしょうし、大きな動きとしては、途上国の森林減少を抑える契機にもなるのかもしれない。

三次 ●森林減少の抑制目標は、達成はできて



①浅野透理事長の本

『日本の森林・多様性の生物学シリーズ①
森のスケッチ』(中静透著 東海大学出版会)

* Key Words 生物多様性条約締約国会議(COP15)

生物多様性条約は、1992年にブラジルで開催された国連環境開発会議(地球サミット)で調印、翌1993年に発効した。ほぼ2年ごとに締約国会議(COP)が開催され、2010年には日本の愛知県でCOP10を開催。2020年までの「愛知目標」が立てられた。中国・昆明でのCOP15の開催が予定されていたが、コロナ禍の影響で延期となった。



熱帯雨林を切り拓いてつくられたオイルパームの大規模農園。生物多様性保全の観点からは問題だが、一方で雇用を生みだす。SDGsの目標間でのコンフリクトの一例。

いませんが2020年でゼロ。2030年の目標は森林増加3パーセントです。

浅野 ● どういったプロセスの改良をすれば、目標に近づくのでしょうか？

三次 ● 政策合意はありますが、義務でないところに弱さがあります。とはいえ、森林減少が抑制されてきているのは事実で、希望です。
浅野 ● 先ほどカンボジアの話をされていました。カンボジアもやはりREDDプラスのような、インセンティブを与えるシステムを作ったことで、お金がたくさん投入された結果、政府が無策でいるわけにはいかない。そ

れで、森林の減少にブレーキがかかったというのでしょうか。

三次 ● そうですね、おそらく。

浅野 ● 森林によって得られる公益的機能つまり生態系サービスですが、その価値を広く人びとが認めれば、むしろ投入されるお金がまだまだ少ないという話になるのかもしれない。どちらかというと、そういう生態系サービスに対する支払いのシステムが先行しているものの、お金に換えがたい価値に対する理解はまだ遅れているという気がします。

三次 ● いま気候変動が顕在化してきて、その中で森林が果たす役割、果たせない役割があります。過度に期待されても、森林だけで全てをカバーできるわけではありません。土地利用の仕方をまちがうと、災害などの影響もできます。

浅野 ● SDGsを旗印としてうまく機能させられないかなと思うんです。日本には農家、林家それぞれに補助金がありますが、その補助金が、たとえばSDGsの実現といった方向性でもたらされると実効性が高い。片方で河川改修しながら、片方で生物多様性の豊かな用水路を作るといったようなことは、なかなか前へは進めない。より総合的に農業と林業と防災とをハーマナイズした地域計画を考える視点が必要だと思うんです。

三次 ● そうですね。おそらく自治体がいちばん行動しやすいだろうと思います。

浅野 ● 土砂災害などにみるように、その山をどうマネージメントしたかによって、その影響を直接受けるわけですからね。堤防などで

田んぼや家屋を災害から守るのとおなじ視点から考えなくてはいけない。やはり地域がトータルに計画できるのが、ベストかなと思います。

三次 ● ドイツでは、感染症下で森に出る人がすごく増えたそうです。また、ロックダウン中のCO₂の排出減でいうと、EUは速報値で23パーセント減です。

浅野 ● 中国やインドでも空気がきれいになったそうですね。災禍への対処の仕方によって、変革の契機となる部分はあります。

三次 ● EUは、今それでビジネスを考えています。すでに、「アフターコロナ」に現代の問題を克服する新しい時代をみている。

浅野 ● 日本ではそこまでの議論が主流になっているとは言えない。経済のダメージを少なくして乗り切ろうという議論がほとんどです。

三次 ● 日本は感染が広がりにくいファクターを持っているようですから、むしろシステムの変革を考えるいいチャンスなのですが。

浅野 ● コロナ禍同様に、気候変動もいつか経済に大きなダメージを与える日がやってきます。いまの逆境を教訓に、いまのうちに環境問題や資源問題のリスクに対応できる新しいシステムをめざせるといいのですが。

三次 ● 人類の未来は一蓮托生。そうした意識でおなじ方向をみているといいですね。

